

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400034		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街家代(1階・2階合同)		
所在地	掛川市家代の里2丁目13番10号		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2297400034-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体拘束0！身体拘束だけではなく、精神的拘束もしない。
 入居者一人一人と毎日接し、たくさんお話をし些細な変化も見逃さない様、又一人一人に寄り添い安心して毎日の生活を送れるよう本人のペースに合わせてケアしています。入居者の方達が毎日笑顔で過ごせるよう年中行事や季節が感じられるような取り組みをし、家族のような雰囲気まで一日を過ごし、誰が来ても「明るく元気な家」と思ってもらえるよう頑張っています。入居者それぞれの認知症状の変化に対して対応できるように職員が教育を受けており、現れてくる症状に対して適切に対応できている点が入居者または家族に安心感を与えていると

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街に溶け込むように建つ事業所の玄関を開けると、大きな楕に『家代』の文字が目目を惹きます。これは過去に優勝経験のある法人運動会で使用したもので、本年はよりよい支援が行われたチームに贈られる「ベストパートナー賞」を獲得しました。人と関わることが好きな職員が集い、積極的に挑戦を続ける管理者を中心に一丸となって取り組んできた証で、この上ない喜びとなっています。時と共に手厚い介護を必要とする人が増えるなかにあっても、『誰が来ても家族のような雰囲気を感じる そんな明るい元気な家にする』—若い職員たちが自ら考えた平成26年度の抱負と笑顔の対応からは頼もしさが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつでも笑い声が絶えない 笑顔あふれる我が家でありたい」 入居者の方達と家族のような雰囲気です。一日一日を過ごし誰が来てても明るく元気な家(ホーム)と思って頂けるよう職員全員が頑張っています。	理念にうたわれている通り、出迎える職員挨拶や利用者の笑顔には明るさ、元気があふれています。職員育成に力を注いできた管理者の思いが実り、来年度の抱負は職員自身からあがったもので成長の足跡が顕著です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	家代の前は通学路になっています。子供たちの登下校時には窓を開け声をかけています。時には入居者の方達と玄関に出て短い会話を楽しむようにしています。また、ペットの散歩も多いので見かけたら声をかけペットを交え世間話を一緒に楽しんでいます。草刈り等参加しています。	散歩中の会話に始まり、近くのピアノ講師による音楽レクリエーションや尺八、三味線ボランティアなど、住宅街の中で“家”としてのつきあいがあります。緊急時に活用してもらうため、近隣の人たちにもAED講習会への参加を呼びかけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110番の任命を受けています。いつでも24時間職員がいるので安心して頂いています。認知症介護に関心している方がいらつしゃると民生委員から相談を受けいつでも相談に乗る旨をお伝えして頂くよう言っております。AED取扱いの講習を近々行います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方達の近況報告も細かくしており御家族からの希望・意向もお聞きし日常生活におけるケアの向上に活かすことが出来ています。	参加メンバーも多彩で地区だけでも5名の参加があり、事業所内での感染症や身体拘束研修を報告し、理解を得られるよう努めています。関心の高い防災では避難経路について検討したり、家族からは認知症進行における心境を語ってもらう場にもなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所高齢者支援課の方に事業所、地区、御家族様からの疑問等に答えていただいたり、時には想いを提案として受け止めていただいています。また、福祉に関する情勢も把握するよう努めています。担当者も細かいことでもいつでも相談下さいと語ってくれています。ご家族も安心してくださっています。	定期開催の運営推進会議には、行政・地域包括支援センターとも出席があることを書面で視認しました。高齢者支援課とは常々相談にも丁寧に対応してもらえる関係にあり、質問は気軽に電話でもおこなえ、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は虐待につながっているのだと職員一人一人が意識するよう教育をしました。身体だけではなく言葉での拘束があることも職員は認識できており、本当の意味での身体拘束0に向け意識の向上が図れるようになっていきます。	身体拘束ゼロ宣言をしていますが、言葉による抑制がないとは言えないのが現状です。「誰のためか、職員都合によるものか、利用者目線であるのか」「同じ言葉を受けて自分の親だったらどう思うか」を振り返り、相手を想う心が大事であると管理者から伝えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は身体に関してだけではなく日常の何気ない言葉でも虐待につながっていくのだということを職員と話し合いました。身体的被害よりも精神的被害がもたらす危険についての話し合いをし職員の意識の向上に役立てることが出来ました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が学んだことを基に職員と話し合いを持ち一人一人考え行動してもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解して頂けるよう説明しています。気軽にお話しして頂けるよう御家族とのコミュニケーションは特に大事にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の負担にならない様行っています。職員とも気軽に話せる関係を築く努力をしています。	運営推進会議やサービス担当者会議で意見や要望を聞く機会があります。また、面会時にフェイスTOフェイスで率直な話し合いも成されています。面会の家族には、心を割って職員一人ひとりが丁寧な対応を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1.2か月に一度程度の割合で個人面談を行い要望、意見等を聴く機会を設けています。また、職員の提案に対しては重く受け止め改善を図っています。	管理者は信頼関係を築くことがスキルを上げることにつながると考え、日頃から職員の表情には気を配り、声をかけるようにしています。月に一度のユニット会議には働きやすさやOJTに関する意見があがり小さなことでも提案を受けとめています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	推奨してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	要望に応じ、取り組んでくれています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念を基に家族のような雰囲気を感じていた だき時には怒り、時には一緒に涙を流し、そ んな何気ない毎日を送って頂けるよう職員一 同思い、何でも話して頂けるよう努めていま す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	御家族が笑顔で気軽に訪問していただける ような施設が職員全員にとっての望みです。 御家族の健康にも気遣うよう心掛けていま す。 遠慮せず何でも言い合える関係を作れるよう 努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	ご相談をよく理解するよう心掛け、提案でき ることはさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	職員はご入居者とご家族との絆はもちろん、 自分たちとの絆も感じています。良い関係が 築けていると思っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問して下さる方達にもゆっくりお話しでき る環境を整えています。	家族の協力を得て地域の敬老会に参加したり、 馴染みの床屋に通う人、法事や墓参りに出かけ る人もいます。針仕事を継続している利用者が 雑巾縫いに精を出している場面にも遭遇しまし た。長年親しんだ句会の句誌を届けてもらって いる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	入居者本人の意向を重視しつつお互いが関 わりを持てるよう支援しています。 関係は職員全員把握しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々連絡をくださったり訪問して下さり、現状を報告して下さるご家族様もいらっしゃいます。他所に移られた方の面会もご家族の了解を得て行かせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の周辺症状の著しい悪化が見られる方が多くいらっしゃいます。ご本人の希望を全面的にかなえることはできませんが本人が出来る限り楽しく穏やかに日々を過ごすことができる様支援しています。業務に関してのマニュアルはありません。	言葉で表すことができない人には“目で見て耳で聞いて寄り添う、ことを旨とし、日頃の行動観察から想いを推し量るよう努めています。得られた情報は申し送り、経過記録で共有しています。特に申し送りは時間をかけて行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティング時ケア会義も一緒にを行い職員一人一人の想い・考え等を発表してもらい全員で話し合っています。また、御家族の想いも事前に聞き取り反映させるべくケアを行えるよう作成しています。	基本的に計画の見直しは半年または更新時、状態変化の兆しが見えた時に行っています。モニタリングはミーティングの際に全職員で気づきを話し合い、プランに反映させています。家族の意見や要望は、サービス担当者会議や面会時の対話を丁寧に行うことで得られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設サービス計画書を基に月に一度のミーティングでモニタリング結果を話し合い反省をもとに次への課題として挙げるようにしています。また、『申し送りノート』をつくり気づき等を記入し全職員との情報共有を徹底するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来得る限り活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を密に取り、家族との連携もスムーズにしています。9割の入居者のかかりつけ医が嘱託医であるため2週間に1度の往診を受け、体調の変化を見逃すことなく迅速な医療を受けることができます。また、診療時間外でも医師は駆けつけてくださいます。	医師、看護師ともに24時間対応で安心の体制にあり、18名中16名が協力医に変更しています。早期対応が必要とされる場合は往診をお願いでき、医療面で心強いサポートが得られています。往診には家族に立ち会ってもらおうようお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からの報告・相談。看護職からの相談・指示と連携は上手に取れています。看護職からの的確な指示により早めの対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携をとり情報交換、相談を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族には入居時の説明と共に体調変化が見られた時等十分な話し合いを持っています。	実績はありませんが、協力医との連携もあり、家族とは契約時に急変した場合の対応を確認しています。重度化の際には医師や家族との協力、職員の受け入れ態勢を整えていきたいと考えています。家族の宿泊室も必要としており、ハード面の整備を課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の連絡方法を書式としてつくっており看護師を講師とし定期的に行っています。また、随時、入居者の状況に応じ対応を指示してもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路、避難場所は把握できています。地域との協力体制はしっかり築けています。	夜間連絡網を作成し、訓練では布団を使って実際に利用者を階下に誘導して時間計測を行いました。いかに難儀かを実感し、有事では慌てないことが大切と実感できました。近隣の皆さんを対象としたAED講習も企画しています。また、備蓄についても品目や試食を検討中です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	徹底しています。	周囲に誰もいない所での声かけや対応も、自分や身内がされたら、家族が聞いていたらどう思うかを絶えず問いかけるよう指導しています。本人だけではなく家族への報告も職員の何気ない言葉が傷つけていないか真摯に向き合い、選ばれる事業所でありたいと考えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの誘導をできる限り少なくし、目的的に思いを伝えてもらえるよう働きかけています。 うまく伝えられない方に関しては上手に言葉の誘導も使うようにしていますが、表情等留意し思い・希望の表出を見逃さない様になっています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の周辺症状の著しい悪化が見られる方が多くいらっしゃいます。ご本人の希望を全面的にかなえることはできませんが本人が出来る限り楽しく穏やかに日々を過ごすことができる様支援しています。業務に関してのマニュアルはありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ペースト食の方がいらっしゃいますが、味付け等ご本人の好みにできる限り添うようにしています。美味しく食べていただけるよう言葉かけも留意しています。食事の準備・片づけもできることはしてもらっています。	食材は注文により毎週届けられ、各階職員がおやつも含めてメニューを検討し手作りしています。ユニット合同の食事は交流の場でもあり、お祝い事には寿司や天丼、ピザなど出前を活用し喜ばれています。好きな物を美味しく食べてもらうことを信条としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーの計算はしていませんが、偏らずにいろいろな食材が取れる様工夫して調理しています。補水に関しては声掛けのできる限り摂取してもらうようにしています。一人一人の好みも把握しているので好みに合ったものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立を推奨していますが、仕上げはお手伝いさせていただきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っています。	入念な観察と医療連携でバルーンカテーテルが抜けた利用者は表情が変わって意欲的な毎日となり、現在布パンツに挑戦中です。尊厳を守る支援ができたことに職員一同喜びを感じています。自宅で失敗が多かった人が、適切な声かけによって自立した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医、看護師とも相談しながら本人の体調に合わせ取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人が入浴したい気持ちを大事にし、支援しています。	週2回をめやすに、本人の要望に応じて回数を増やしています。過去には入浴日を決めたりマニュアルを作成しましたが、職員に気持ちの余裕がなくなってしまうため、自然な流れでのんびりと気持ちよく入れる支援を心がけています。入浴できない時は足浴を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報を職員がいつでも閲覧できるようにしており変更があった場合の注意事項も常時伝えています。変化があった時には詳細に記録に残し他職員に報告するよう徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを把握し行っていたり出来るよう支援しています。ユニット間での行き来をしたり散歩に出かけたりして気分転換をして頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	努力しています。	積極的に散歩を奨励してきましたが、年齢によるADLの衰えも重なり徐々に遠出が困難になっていきます。外気に触れることは大事なので車椅子になっても全員が外出できるよう工夫しています。春には掛川城の桜を見に出かけました。	歩行できる利用者が少なくなっても引き続き外出への取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族にお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の意向に添って支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花を飾ったり、壁画を作ってはったりしています。フロアは特に明るい雰囲気を作るよう努力しています。 ベランダの洗濯ものを見て「もう乾いたかねー」との会話が日々聞こえています。	木目の床は独特のぬくもりがあり、また利用者が色とりどりの花紙を丸めて作った壁面が大きな窓から注がれる陽の光で愛らしく映えています。浴室やトイレはすっきり整理され、5Sへの配慮も十分で、換気も定期的におこなわれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しています。	居室入口の杉戸が懐かしさとあたたかみを感じます。収納スペースがあるため、室内はすっきりと整理されています。本人に馴染みのあるものを持ち込んでもらっていますが、状態の変化で物への混乱が起こる場合は、その都度相談して安寧な時間が過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫しています。		